



東京湾再生官民連携フォーラム 平成 27 年度 第 4 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 28 年 3 月 17 日 10 : 00 ~ 12 : 00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール
所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 5F
3. 議事次第
 - 《審議事項》
 - (1) フォーラム中・長期事業計画（案）及びフォーラム平成 28 年度事業計画（案）、
予算（案）について
 - (2) CSR-NPO 未来交流会（マッチング）について
 - (3) 企業・行政等施設見学会について
 - (4) 平成 28 年度フォーラム総会開催日時及び開催場所について
 - (5) フォーラムアンバサダー制度について
 - (6) 新 P T 設立について
- 《報告事項》
- (1) セブン-イレブン記念財団との協定について（事務局報告）
- (2) フォーラム平成 27 年度事業報告（案）について（事務局報告）
- (3) 各 P T 活動報告（各 P T 長）
- 4. 出席者
來生委員長、古川委員、鈴木（穰）委員、中井委員、笛木委員、工藤委員、小野代理、鈴木（康）委員、田久保委員、木村委員、竹口委員、渡邊代理、加藤委員、佐々木（宏）委員、根木委員、堀口代理、米村代理、小澤代理、岡本代理、林委員、鈴木（健）委員、須藤委員、武井委員、池上（事務局）、中島、（事務局）
- 5. 議事メモ
 - 5-1 開会
出席、資料の確認（事務局）
 - (1) 開会挨拶（委員長）
 - ・今回は、本年度最後の会議ですが、盛りだくさんの議題がある中で、新しい P T を立ち上げるといふ、うれしい動きもあります。早速議事に入ります。
 - 5-2 議事
 - 《審議事項》
 - (1) フォーラム中・長期事業計画（案）及びフォーラム平成 28 年度事業計画（案）、
予算（案）について



【決定事項】

中・長期事業計画（案）及びフォーラム平成 28 年度事業計画（案）は、提案の通り承認された。

（事務局説明）

- ・次期中・長期はフォーラム全体の成長の時期にあたるとして、飛躍と加速を生み出すことを念頭に、計画目標を設定している。計画のポイントは、フォーラム活動のさらなる普及啓発・広報活動やフォーラムの法人化検討委員会の設置などであり、現在セブン-イレブン記念財団へ平成 28 年度予算の助成申請中である。

【審議経過】

- ・3 年ごとに中期計画を立てるということで、第 1 段ロケット（1～3 年目）は、それぞれの異なる論理から脱出する努力をしてきてようやく軌道に乗りつつある。第 2 段ロケット（4～6 年目）をどう点火するかが課題。ここまで来た連携の一体化を、P T の活動や、いろいろな組織の仲介的な活動、そういった内容の積極的な情報発信活動に、さらにつなげて行くことを軸にして行く。
- ・平成 28 年度予算の詳細は、次の会議で議論いただく。

(2) CSR-NPO 未来交流会（マッチング）について

【決定事項】

CSR-NPO 未来交流会（マッチング）の実施は、提案の通り承認された。

【審議経過】

- ・今までは資金を持った企業に応援をして頂くことが多かったが、最近では、企業が社員の方々と一緒に活動し、それを NPO 等がサポートする事例が増えている。大感謝祭なども企業と NPO や市民などが組んで展示出展をして頂けたら良い。

(3) 企業・行政等施設見学会について

【決定事項】

企業・行政等施設見学会の実施は、提案の通り承認された。

（事務局説明）

施設見学の日程、コース等詳細は、これから施設管理者と調整していく。

【審議経過】

- ・見学予定箇所の“人工磯場”は、横浜市の都市公園の一部であるので、海に面する都市公園として紹介する方が良い。
- ・海域だけではなく、下水処理場を見学対象にすると陸域での生活排水処理の取り組みがより理解できる。
- ・参加募集人数を早めに決めて頂ければ会員企業への案内をするなど、協力できる。
- ・パブリックアクセス P T と連携を図り、見学会のプランを更によりよくしていくこと。
- ・ある種の市民への P R の場でもあるので、参加人数なども工夫する事。

(4) 平成 28 年度フォーラム総会開催日時及び開催場所について



【決定事項】

平成 28 年度フォーラム総会開催日時及び開催場所は、提案の通り承認された。

- ・開催日時：平成 28 年 10 月 22 日（土）10:00～12:00
- ・会場：横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3F ホール

(5) フォーラム アンバサダー制度について

【決定事項】

フォーラム アンバサダー制度及び東京湾再生アンバサダーの任命については、提案の通り承認された。

- ① 榎 太一（ます たいち）氏：日本テレビ放送網株式会社
- ② ガリガリ君：赤城乳業株式会社 キャラクター

【審議経過】

- ・榎様におかれては、これまでの研究、学歴の中で培われた認識の高さは大変貴重である。また、ガリガリ君については、これまでフォーラムに対してご支援を頂いていることと、企業として水に対して積極的に取り組まれていることからアンバサダーとして相応しい。

(6) 新 P T 設立について

【決定事項】

2 つのプロジェクトチームの新規設立については、申請の通り承認された。

- ① P T 名称：東京湾浅瀬再生実験 P T、P T 長：鈴木康友氏
- ② P T 名称：東京湾の窓 P T、P T 長：芝原達也氏

【審議経過】

①東京湾浅瀬再生実験 P T

- ・こういった取り組みを東京湾再生としてイメージしていた。千葉港湾事務所が JFE スチール直立護岸前面に緩傾斜護岸を作る取り組みをした。その後、継続して千葉県漁連が JFE スチールと協働で試験的に造成したことがある。是非やっていただきたい。
- ・新規の P T 立ち上げを契機に、すでに発足している P T と有機的に連携をして、P T 同士の情報交換が進んでいくことを期待する。

②東京湾の窓 P T

- ・政策提案にどう結び付けるか見えにくいところがあるが、様々な活動をされている団体相互間で、共通の教材のようなものの開発を考えていく中から、今まで見えてこない政策提案があるのではないかな。
- ・様々な角度から連携を図りわかりやすく伝える活動は必要。期待したい。

《報告事項》

(1) セブン-イレブン記念財団との協定について

【報告】（事務局）

現在、セブン-イレブン記念財団に助成申請書を提出しており、あわせて協定の更新も財団で審議を頂いている。



(2) フォーラム平成 27 年度事業報告 (案) について

【報告】 (事務局)

平成 27 年度の事業成果のポイントを報告

- ・生き物生息場づくり P T からの提案をもとに、フォーラムから東京湾再生推進会議に政策提案を行った。
- ・実行委員会方式による東京湾大感謝祭を開催し、昨年を上回る市民参加を得た。
- ・「国連生物多様性の 10 年・中間年フォーラム～生物多様性の主流化に向けたライフスタイルの転換のために～」に出席し、認定連携事業の「認定証」を受けた。
- ・交流会を実施 (C S R - N P O 未来交流会、施設見学会) した。
- ・赤城乳業(株)からの寄附金を頂いた。

(3) 各 P T 活動報告 (各 P T 長)

各 P T 平成 27 年度活動報告、平成 28 年度活動計画

◆東京湾大感謝祭 P T 活動

【報告】 (木村 P T 長)

- ・第 3 回感謝祭は 8 万 8000 人の来場者があり、役割を果たせたと思っている。
- ・第 1 回目はこなさなければならぬことが多く、第 2 回目は情報を伝えることが主眼、第 3 回目は体験型など工夫したイベントコンテンツと変化してきた。課題は資金である。
- ・第 4 回感謝祭に向けてのお願いであるが、各省庁が協力して省庁間または自治体間などの連携を深めて頂きたい。各スポーツ新聞社の協力によりタレントフィッシュイニングカップなどが企画され、多くの方の注目を集めたい。

◆東京湾環境モニタリングの推進 P T 活動

【報告】 (古川 P T 長)

- ・平成 27 年の一斉調査は 8 月 9 月の荒天により実施できず残念であった。毎年作成している環境マップをさらに一般の方にもわかりやすくする努力をしている。
- ・『東京湾で知っておきたい 7 つのこと』を作成している。今回は分科会の会員のご尽力により陸域と海域のつながりを意識したマップとなっている。
- ・生物調査は、一斉調査と連携して「あさりワクワク調査」などを実施している。来年度も同様にわかりやすいマップ作成、一斉調査への参加、生物調査の実施などに取り組んでいく。

◆生きもの生息場 P T 活動

【報告】 (事務局が代理報告)

- ・平成 27 年度は政策提案を行った。平成 28 年度は P T 活動第二期として取り組む。3 月末に第二期の最初の会合を予定している。

◆指標活用 P T 活動

【報告】 (事務局が代理報告)



- ・行政（東京湾再生推進会議）と民間活動の情報共有のサポートなどを実施している。
- ・ワーキングを立ち上げ、市民データなどの収集に取り組む。データ収集では、事務局から会員へデータ提供依頼をしてもらうなどの協力をお願いする。

◆東京湾パブリックアクセス方策検討PT活動

【報告】（竹口 PT 長）

- ・既存施設へのアクセスに重点を移して検討してきた。既存の施設・ルートには「海に関する情報」や「海との関係の情報」がほとんど表示されていない。行政に情報を補強して頂くと、なぜ海の状況が変化をしたか、今どうなっているか分かる。既存資源を活用したアクセスを議題にPTメンバーで検討している。GPS 機能などスマホを活用した取り組みも検討している。

◆東京湾での海水浴復活方策検討PT活動

【報告】（事務局が代理報告）

- ・平成 27 年度は 4 回の PT 会合を開催した。4 回目の会合ではワーキングチームを編成し、今後ヒアリング調査を実施予定。

◆江戸前ブランド育成 PT

【報告】（事務局が報告）

- ・上田 PT 長辞任により次の PT 長を調整中である。事務局がしばらくの間支援していく。4 月には PT 会議を実施し、一連の活動を確定していく予定。

■全体通しての質疑・応答、意見

- ・各 PT が相互に有機的に関係が深まりつつある。事務局がうまく情報共有や相互連携のサポートをおこなってほしい。
- ・パブリックアクセスの情報提供方法は、IT 情報の活用の中で、マンホールの蓋を活用した IT ツールなどがある。
- 情報の変化への対応は、最先端の情報システムで対応するのが良く、コンテンツ変更などが容易になるので調整したい。
- ・生きもの PT の政策提案へのリアクションはあったか。
- 今のところリアクションはまだない。
- ・上田委員の辞任にともない水産庁の方の委員への選出はどのような経過か。
- 現在調整中である。水産庁もフォーラム活動の情報収集中である。

6. その他

会議終了後、東京湾再生アンバサダー任命式を行うので、企画運営委員も参加していただきたい。との要望が出された。

以上